

特別講演 2

「糖尿病における脂質管理の重要性」

京都府立医科大学病院 教授

中村 直登 先生

近年、ライフスタイルの欧米化に伴い、糖尿病の罹患率が高まって来ていることは周知の事実となっている。また多くの疫学的調査から糖尿病患者は非糖尿病患者と比べて冠動脈疾患の発症率が高く、糖尿病患者のマネージメントにおいては、大血管合併症のリスクをいかに低下させるかが重要となっている。

現在、わが国で進行中の JDCS8 年次報告では糖尿病患者の大血管合併症の年齢補正危険因子として LDL-C が 1 位となっており、これは海外で行なわれた UKPDS でも同様の結果となっている。また 2004 年に発表された「CARDS」では LDL-C の高くない 2 型糖尿病患者にスタチンを投与することにより、冠動脈疾患、脳血管疾患の発症が有意に抑制された。このようなことから糖尿病患者においては血糖のコントロールのみならず脂質、特に LDL-C のマネージメントが非常に重要であると考えられる。

しかしながら「動脈硬化性疾患診療ガイドライン 2002 年版」発表後に行なわれた、J-LAP、LiMAP、J-GAP 等の調査結果を見る限り、糖尿病患者の脂質管理の現状は必ずしも十分に行なわれていない状況にある。

このような現状の中、糖尿病患者の脂質管理のポイントは何か？について解説する。